

中止になってしまいました

創作実験劇場

3月14日(土) 兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール 17時30分開演

出演 藤原みのり 岡田珠季 吉川ひかる 南琉花 穂井田瑞 坂本まつり 松浦歩里 石井棚結 高橋陽奈 谷川結香 吉川葉々子 中野菜歩 大井遙 門家由采 渡邊菜子 菊原麻理奈 村上美羽 菊原麻衣花 稲益夢子 平岡愛理 板垣祐三子 石井麻子 向井華奈子 かじのり子 菊本千永 金沢景子

新型コロナ…どうなるのだろうと、どきどきしながらそれでもリハーサルに励んでいたのですが、3月3日の夜、芸術文化センターが閉館を決定、創作実験劇場は中止になりました。悔しくてなりません。今後何とか上演したいと思っておりますが、今は何も決定できません。作舞者からのコメントと「進る」に出演している小中学生からのコメントをご紹介します。出演者が本番を楽しみに努力を重ねていたことがよく分かります。今後、上演できるようにできる限りのことをしていきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

「かぎろひ」 太陽が昇る前の光を指す、かぎろひ。闇を押し分け、希望に満ちたこの時間。 寺井美津子

「わたし—彼女の延長」
過去—彼女、現在—わたし、未来—あの人。彼女の延長であるわたし、わたしの延長であるあの人。どれが欠けてもわたしはない。 かじのり子

「水鏡」 ありのままの姿を映す「水鏡」をテーマに高校生2人で作舞し今回初めて踊らせていただきます。 菊原麻理奈 渡邊菜子

「還る」 ドラムソロの即興生演奏で踊ります。わたしが土に還るときは“いま” 金沢景子

「この子が無事に帰るまで」
家を出て無事に帰ってくること、当たり前のことのようで実は小さな奇跡の積み重ねかも。 菊本千永

「vibrant」 真っ白から次第に染まりゆく活気に溢れた鮮やかな心を大学生2人で創作しました。 稲益夢子 菊原麻衣花

「追憶」 遠のいているようで、振り返ればいつもそこにある「記憶」を表現します。 平岡愛理

「掘る人」 若松英輔 詩 「掘る人」に着想を得て、故中村哲医師への哀悼の意を表して。 向井華奈子

「ほとぼし」
「進る」
月面に刻印された人類の足跡の写真を見た時、人間は宇宙人だと気づきました。地球は宇宙の中の天の川銀河の中のどこかに在ってそこに住む人間は宇宙人なのだ。と。現在、人類はアフリカを出発して何万年もかけて地球上のいたるところに住むようになりました。争いやさまざまな理由があったにせよ「この向こうには何かある」それを見たい、知りたいという気持ちで進んでいったと思います。そして今、ここ地球から離れてもう少し遠くのあの星へ行ってみたいと思う人がいるはずだと思って「進る」をつくりました。 藤田佳代

練習は大変ですが、先生やお姉さんたちとおどることが出来てうれしいです。本番も気合を入れてがんばります!! 藤原みのり(小3)

創作実験劇場は5才の時から見えていました。わたしはいつか「先生みたいにかっこよくなりたいな〜。」とずっと思っていました。三年生になって先生たちと同じ舞台にたてるなんて、とてもうれしいです。れんしゅうでけい子先生たちのダンスや、のり子先生のソロ、お姉さんたちのダンスを見てると「かっこいいな〜!」「あそこどうやってやっているんだろう〜?」としか思えません。かよ先生はダンスときにはきびしいけど、ふだんはとってもやさしい先生です!!なのでわたしはバレエをつづけていきたいです。 岡田珠季(小3)

このおどりは、ようせいたちがしんかをしているいろいろな旅にでるおどりです。とぶときは、手をうごかさないように注意しています。いろいろな旅を見ている人にもつたわるように、全力でおどりたいです。 吉川ひかる(小3)

わたしは、初めて創作実験劇場に出ます。出れるとなった時、すごくうれしかったけど、きんちょうもしました。初めてする動きがあって、お姉さん達みたいに上手にするのはむずかしいけど、もっと練習して、本番では精いっぱいおどれるようにがんばります。 南琉花(小4)

私は「進る」という作品に出させていただきます。私がとくにむずかしいと思っているのは目線です。出演者が目線をあわせると、観客のみなさんにも景色が広がると思います。観客のみなさんに楽しんでもらえるように、ただ踊るだけじゃなくて、気持ちをこめて踊ります。 石井棚結(小5)

わたしは「進る」という作品に出演しようせいの役をおどります。一番年が小さいグループにはいっていて、はじめて大人と同じふりつけなので、同じうごきをしてうまくあわせるのがむずかしいけどがんばっています。いしょうもとてもキレイできにいています。 坂本まつり(小5)

私は創作実験劇場の「進る」に出演します。「進る」は、人間がどう歩くか、どう立つかなど分からないけど色々試してみてもやっと立てた、そこからどこに向かって進んでいくか・・・という踊りです。この踊りは集中力と表現力が大切なのでとてもむずかしいです。だけど上手に出来たらとてもうれしいです。 松浦歩里(小5)

練習でカンペキになってから、本番でミス0。がんばります。

穂井田瑞 (小5)

今回の踊りでは、ひざをよく曲げることと、足先を平行にすることを気をつけて、練習しました。本番では練習どおりに踊れたら「いいな。」と思います。

高橋陽奈 (小6)

この作品の題名「迸る」という言葉には、勢いよく飛び散る、とびあがるなどという意味があるそうです。妖精の命が勢いよくわきでるように勢いよく表現したいと思います。この踊りは一つ一つの動きがとても難しく覚えるのも大変だったけど、見ている人たちに、感動が伝わるように足の先から頭の先まで集中して踊りたいです。

吉川菜々子 (小6)

私は今回、創作実験劇場に出るときまでからわくわくドキドキでいっぱいでした。練習がはじまってからは、細かくて難しい動きばかりで、覚えるのがたいへんでした。でも、やっていますごく楽しいです。本番まで、一生懸命頑張ります。

谷川結香 (小6)

今回の創作実験劇場では 途中までずっと膝を曲げて踊るのでとても大変でした。ですが 踊りの中で初めて膝を伸ばす時に、人類が初めて直立できた時こんな気持ちだったのかなと考えて踊ると、何億年の歴史は凄いなと感じました。一生懸命頑張って踊ります。

中野茉歩 (中2)

私は今回「迸る」に出演させていただきます。難しい踊りですが、細やかな動きにまで気をつけて踊りたいと思っています。観ていただく方々に気持ちが伝わるよう、精一杯頑張ります。

大井遥 (中3)

発表会大成功でした！

第42回発表会 10月12日(土) 神戸文化大ホール

出演 藤田佳代舞踊研究所研究生 拍踏衆

届ける—東北の地震と津波と原発事故で亡くなった数限りない命たちへ ちよつとうれしいことばみつけたよ メリーさんと隠れ家

一週間ほど前から大型の台風が発表会当日に日本列島に上陸しそう・・とのいやな予報が流れていました。なんとかそれてほしい、来るなら一日早く！いや一日遅く！！何とか！！との祈りむなく大型台風は発表会当日の上陸となりました。以前に神戸文化ホールに問い合わせたところ、催し物開催当日の7時の時点で、特別警報が出ているか文化ホールへのアクセスとなる鉄道全てが運休している場合のみ、キャンセルができるということ。大雨警報、強風警報くらいや、鉄道が一本でも動いていればキャンセルできないとのことでした。案の定、当日鉄道は(ありがたいことに)動いていたし、特別警報は発令されていませんでした。やるしかない・・？動ける内とにかく文化ホールへ出発しました。ホールへ着くと、すでに何人かの研究科生やジュニア生、そしてスタッフの方々到着して心の中で、「ありがとう！！」と思いました。何軒かの問い合わせもありましたが、屋過ぎには出演者全員がホールに集まりました。よかったよかった。一人でも来られなかったらとても悔やまれる。お客様は来られなくても仕方ないね、一人のお客様が来てくれたらその人のために踊ろうね、と皆で確認し合い、スケジュールを進めていきました。一度建物の中に入ってしまうと、外のことはあまり気にならなくなります。気がつけば電車が止まっているって、帰れるかな、など言いながら、もう出演者が全員そろっているということで気が大きくなっていました。そして、開演を迎えて、お客様は432人！来て下さいました。大ホールの客席から考えると確かに、少なかったのですが、こんな台風の中、止まっている鉄道もある中、こんなにもたくさん来て下さった！もう感謝しかありませんでした。出演者全員、素晴らしい踊りをみせてくれました。ただ、踊るだけでなく、色々なことを考えて、それを伝えようと踊ってくれました。本当にありがとう。そして、保護者のみなさま。あの悪天候の中、本当にありがとうございました。みなさんといっしょに第42回発表会を開催できたことを心から誇りに思います。今年の発表会は10月17日(土)です。今年は台風の心配をしなくてもすみますように！

藤田佳代 寺井美津子 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子

ありがとうございました

菊本千永モダンダンスステージV

11月9日(土) 東灘区民センターうはらホール

出演 石井棚結 高橋陽奈 谷川結香 吉川菜々子 岡村春花 中野茉歩 門家由采 村上美羽 菊原麻衣花 佐藤茉莉
田中文菜 平岡愛理 梁河茜 板垣祐三子 石井麻子 向井華奈子 かじのり子 金沢景子 寺井美津子 菊本千永
プログラム across—わたしが生まれる 月の森にねむる カクレミノを編む 満ちる・10拍子のうた(作舞 藤田佳代)

リサイタルが無事に終わりました。この会に関わって下さったすべての方に、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。長い準備期間を得て、本番当日はあっという間に過ぎ去りました。本当に幸せでした。

そしてとても嬉しいことがありました。出演者の佐藤茉莉さんの会社の方々が大挙観に来て下さって、佐藤さんは社内報にも載せてもらったのです。そして、その中のお一人から素晴らしい感想をいただきました。許可を得てご紹介させていただきます。

今回初めてダンス公演を見させて頂きました。48歳のダンスには無縁のおじさんです。これまでダンスと聞けば、激しく動き回るイメージでしたが、公演を見た感想としまして、ゆっくりとした動きで、まるで神々に捧げるような神秘的な踊りだと感じました。私は神仏を信じている一人ですが、時間が経つにつれ、寺院や教会にいるような感覚で、神仏が目前にいるようにも思えるほどでした。

ダンサーの柔軟でしなやかな動きからは、美しさや清らかな感情が伝わり、床に映る影からは、なぜか悲しみに似た切ない感情が伝わってきました。美しくて儂い花の一生を表現しているように思えた作品もありました。

作品の作者はダンサーの床に映る影も考えながら作ったのかなと思うほどに奥深さを感じる公演でした。

私の母は寺の娘で、私が幼い頃からこの世は目に見えるもの、見えないもの半分ずつ存在していると聞かされながら育ってきました。

目に映るダンサーの舞い踊る姿から、目には見えない神秘的で不思議な空間を感じていました。

ダンス公演を見た事で、幼い頃の記憶がよみがえり、日常には無い不思議な空間と神仏が目前にいるような感覚でその日を終える事が出来、記憶に残るすばらしい日になりました。ありがとうございました。

坂井孝二